

水稻の生育状況と今後の管理対策（高温対策臨時号）

令和5年8月1日
新潟県農林水産部

〔7月31日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの生育は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、莖数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況で、葉色は前回調査からさらに低下し、地域・ほ場によっては非常に淡くなっています。
- ◎ 新之助の生育は、指標値に比べ、草丈は「やや長い」、莖数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況で、地域差が大きくなっています。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月（7/29～8/28）の気温は高く、特に期間の前半は、かなり高くなる可能性があります。降水量と日照時間はほぼ平年並みの見込みです。
- ◎ コシヒカリの出穂期以降もかなりの高温が続く見込みであることから、栄養不足による品質低下が懸念されます。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 葉色が淡い場合は、分施肥体系・全量基肥施肥^{*1}いずれの場合も後期栄養の確保を優先し、穂が見え始めていても追加穂肥^{*2}を施用してください。
施用方法については地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考にしてください。
- ◎ 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。飽水管理^{*3}を徹底し、その後も出穂期25日後まで継続し、根の活力維持を図るとともに地温の上昇を抑えてください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、出穂状況を確認し、適期防除を徹底してください。

新之助

- ◎ 地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、穂肥施用時の葉色に応じて施肥量を調節して、適正な出穂期の葉色に誘導してください。
- ◎ 全量基肥施肥においても、出穂期の葉色が確保できず、栄養凋落が予想される場合には、ほ場条件等を十分に考慮した上で、追肥を検討してください。
- ◎ 飽水管理を実施し、土壌からの窒素供給を図り、葉色維持に努めてください。
- ◎ ほ場を良く観察し、いもち病の発病を認めた場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

*1 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

*2 穂肥（ほごえ）：出穂期前に追肥すること。穂が見え始める時期が出穂期3日前頃にあたる

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

早生品種

- ◎ 登熟初期（出穂後 10 日間）の高温により胴割粒の発生が懸念されます。
- ◎ 早期に落水すると、下葉の枯れ上がりや倒伏の発生が助長され、未熟粒等が増加して玄米品質が低下します。少なくとも出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力を維持して土壌からの窒素供給を図り、登熟後期までの栄養を確保してください。
- ◎ 高温により登熟の進みが早まる可能性があります。刈り遅れによる品質低下を防ぐため、収穫適期を見逃さないよう注意してください。
- ◎ 多肥栽培では、いもち病の発生に注意し、穂いもちの予防防除を適切に行ってください。

【その他の注意点】

用水の効率的な利用

- ◎ ほ場の見回りを行い、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行ってください。
- ◎ こまめに水回りを行い、かん水が終了したら速やかに水口を止めて節水に努めましょう。

熱中症予防

- ◎ 厳しい暑さが続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。
- ◎ 特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、のどが渇く前にこまめに水分補給するなど、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

フェーン発生時の対応

- ◎ 県からのフェーン・異常高温緊急情報や週間天気予報、台風情報等に注意し、フェーン現象の発生に備えましょう。
- ◎ フェーン現象等で高温・乾燥が予想される場合は、一時的に湛水し、品質低下の防止に努めてください。
- ◎ 緊急的な水管理の対応が行えるよう、地域の効率的な水利用について、事前に準備を進めてください。

◎ 今後の管理対策発信予定日 9月8日

〔補足資料〕

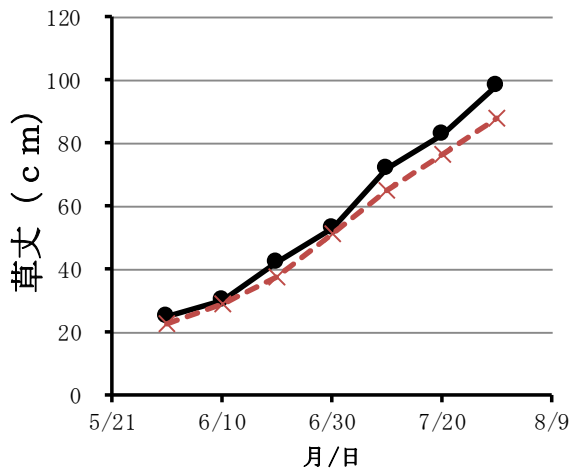
1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況（7月31日現在）

コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況です。

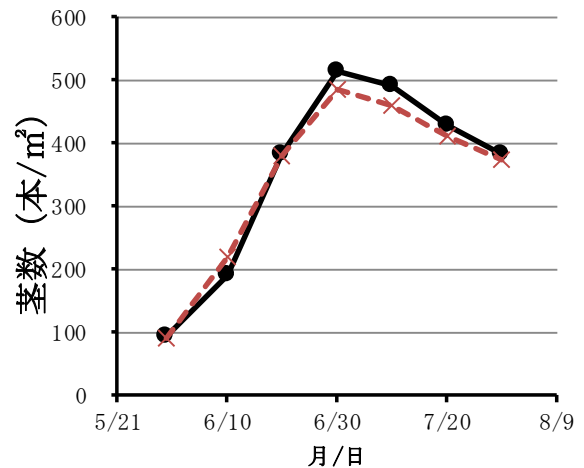
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	98 cm	88 cm	長い	112%
茎数	381 本/m²	373 本/m ²	並	102%
葉数	13.5 葉	13.0 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	31.8	32.8	やや淡い	-1.0

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）



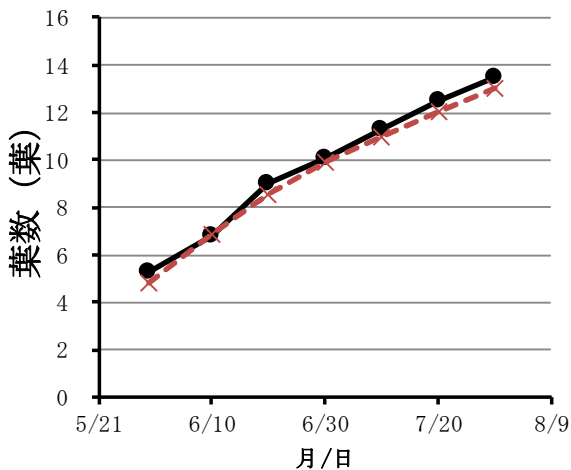
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



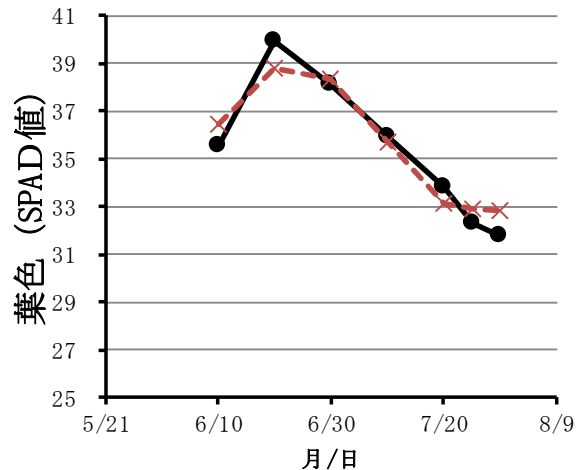
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



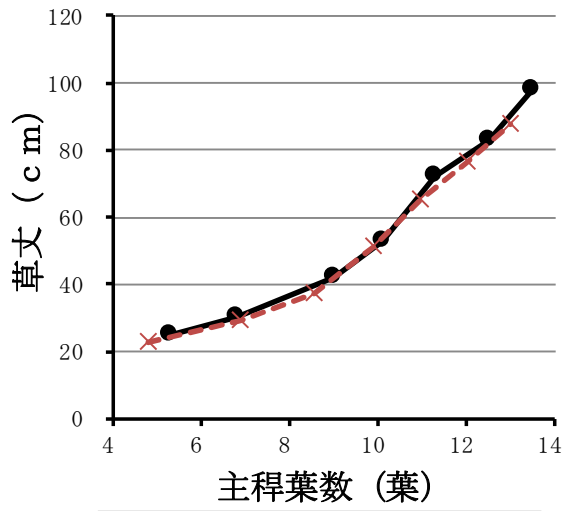
● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



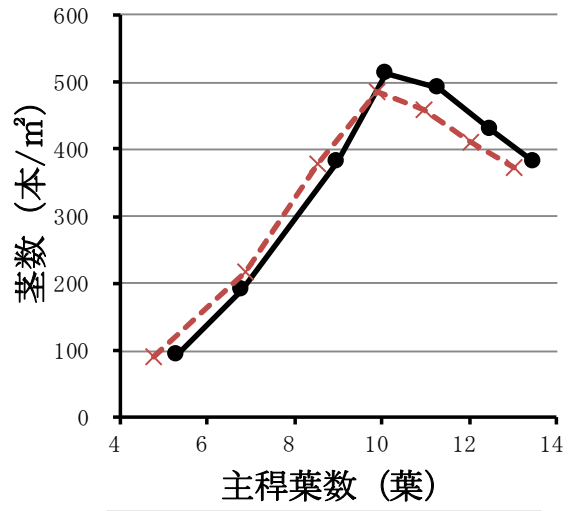
● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)



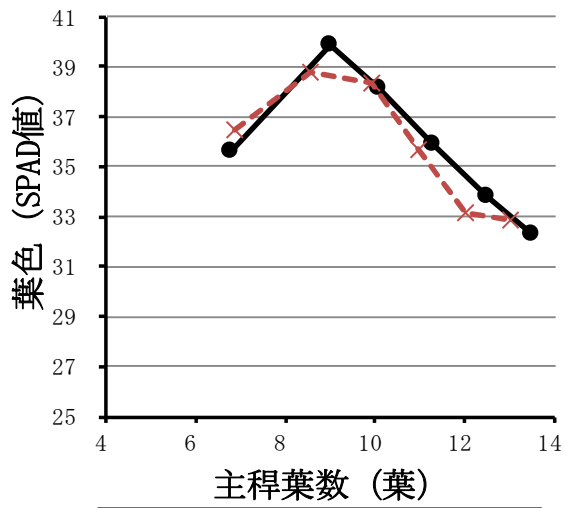
● 本年値 × 指標値

葉数と草丈
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉数と茎数
(県全体)



● 本年値 × 指標値

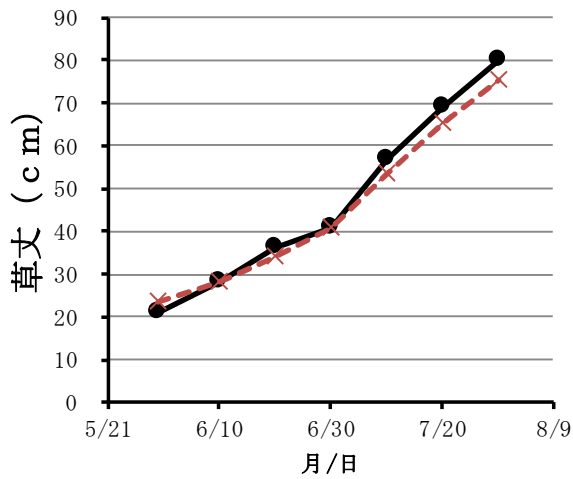
葉数と葉色
(県全体)

新之助

○ 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況です。

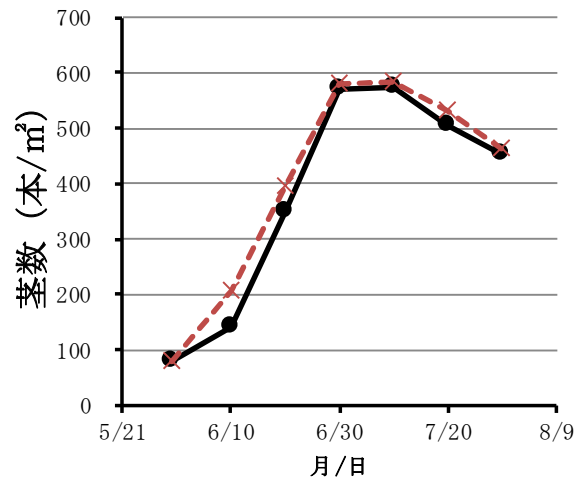
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	80 cm	75 cm	やや長い	106%
茎数	453 本/m ²	464 本/m ²	並	98%
葉数	13.8 葉	13.4 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	33.2	34.2	やや淡い	-1.0

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値 (田植え5月17日、栽植密度16.2株/m²)



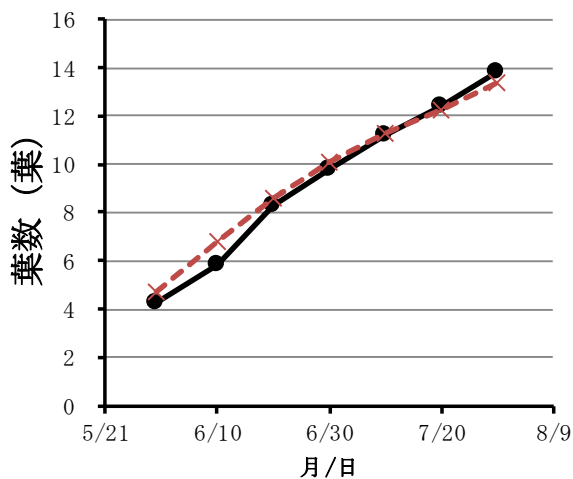
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



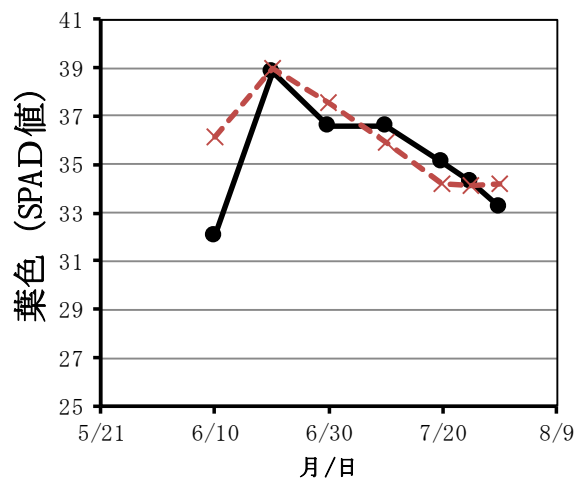
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

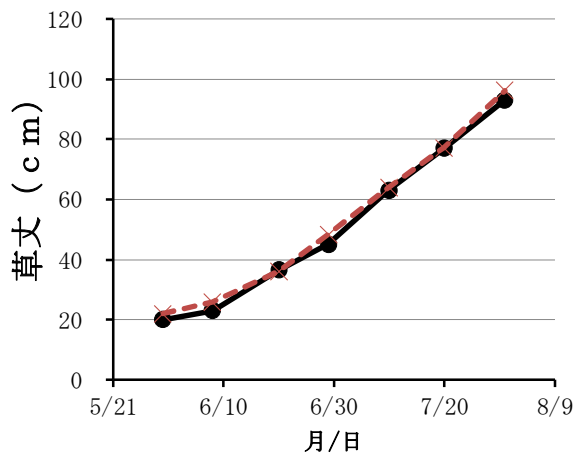
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数は「並」、葉色は「薄い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	93 cm	96 cm	並	97%
茎数	383 本/m ²	435 本/m ²	少ない	88%
葉数	12.6 葉	12.7 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	32.2	35.1	薄い	-2.9

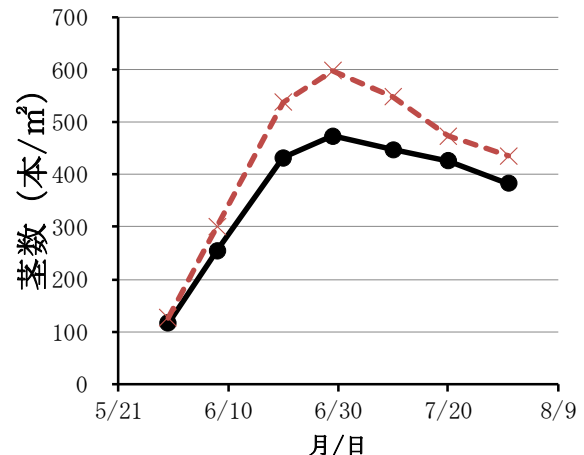
注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度21.7株/m²、幼穂形成期7月6日(平年差+1)

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量2.0kg/10a (1.0kg×2回分施:7月6日、7月14日)

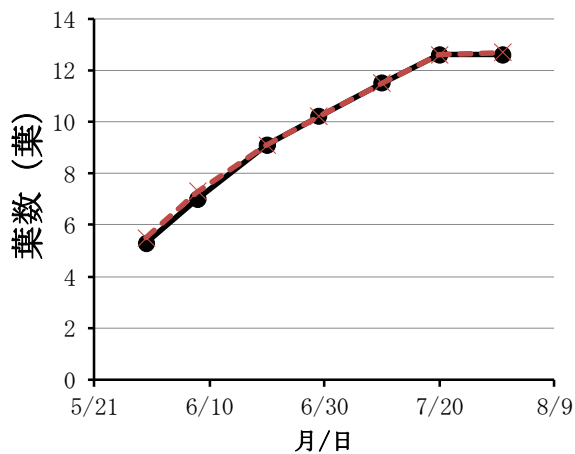
注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



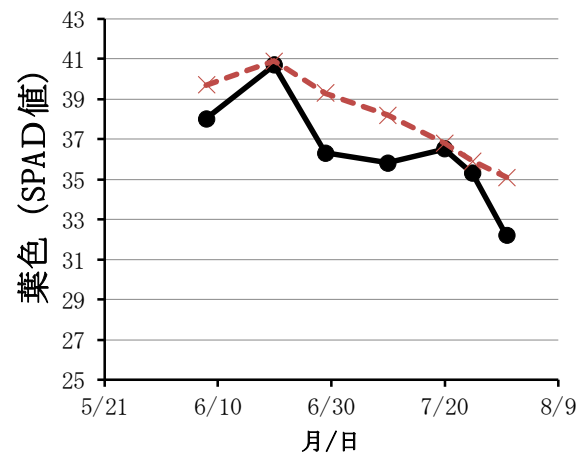
草丈の推移



茎数の推移



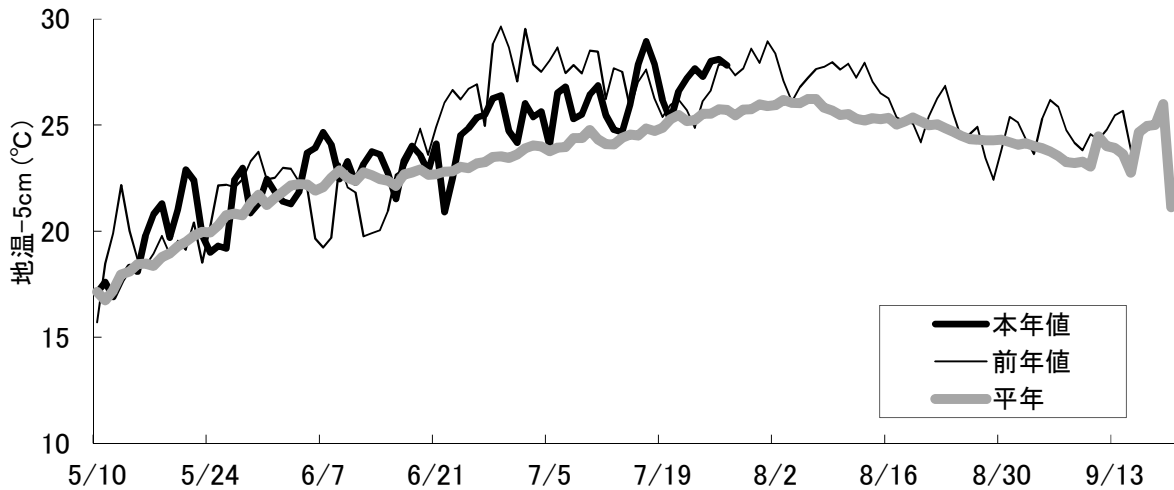
葉数の推移



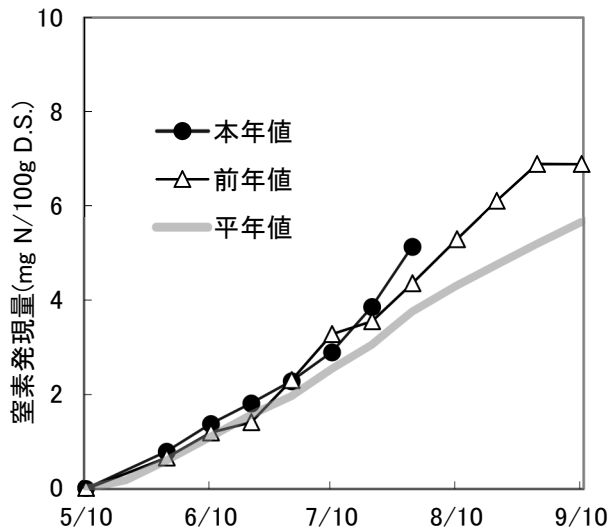
葉色の推移

ちりよく
2 地力窒素の発現状況

- 7/20 ~7/27 の期間中の日平均地温は平年差+1.8℃で推移しました。7/28 現在の地力窒素の発現量は平年より多く推移しています。



水田地温（5cm深）の推移
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
 （5月25日以前はセンサ異常のため、参考値として7.5cm深のデータを記載）



地力窒素発現量の推移(7月28日)
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
 初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a